

	現計画の体系	現状認識（事務局）	次期計画の方向性（案）	フォーラム委員意見
1 位置付け・計画期間	<p>●市民参加推進条例（第6条） 5年を超えない期間ごとに「市民参加推進計画」の見直し</p> <p>●世界文化自由都市宣言 昭和53年10月</p> <p>●京都市基本構想（グランドビジョン）H13～37年</p> <p>●京都市基本計画はばたけ未来へ京プランH23～32年度</p> <p>●第2期市民参加推進計画 H23～32年度 改定版：H28～32年度（R2年度）</p>	<p>○基本構想に基づく次期基本計画が、現在策定作業中。</p> <p>○次期市民参加推進計画も、基本計画の改定と連携して進める必要がある。</p>	<p>・条例に基づき策定</p> <p>・上位計画との連携</p> <p>・計画期間5年以内</p>	
2 目指す未来像	<p>参加と協働により、豊かで活力のある地域社会の実現 ＜5年後の地域社会の姿＞ 「市民、地域の住民組織、NPO、企業・事業者、大学、寺社、行政等のあらゆる主体が、まちづくりにおけるそれぞれの役割を積極的に果たすとともに、これまでの役割の範囲を越えて連携し、対等の立場で知恵と力を出し合う協働のまちづくりや、地域コミュニティの活性化が進み、その成果を市民が実感している。」</p>	<p>○「5年後」に目指す未来像の記述は、前回改定時に具体化したもの。</p> <p>○「5年後」だけではなく、将来にわたり目指すべき姿として、捉えられるものとなっている。</p> <p>○さらに組み入れるべき視点はないか。</p>	<p>・基本的に継承</p>	
3 基本方針（推進施策）	<p>基本方針1 市民との未来像・課題の共有 （3施策）</p> <p>基本方針2 市民の市政への参加の推進 （7施策）</p> <p>基本方針3 市民のまちづくり活動の活性化 （9施策）</p>	<p>○方針1は、前回改定時に3つの方針の基盤として新たに掲げられたもの。</p> <p>○方針2・3は、条例第2条（基本理念）に基づき「『市政への参加』と『まちづくり活動』が相まって、推進」するために定められたもの。</p> <p>○各施策はどこに重みづけをするかなど再編等について要検討。</p>	<p>・基本的に継承</p> <p>・施策は次期期間中の重視する視点により再編</p>	
4 重視する視点	<p>①協働を推進するための対話の機会の充実、情報の共有</p> <p>②社会全体でまちづくり活動を継続的に支援する仕組みづくり</p> <p>③市民参加推進のマネジメント体制の強化</p>	<p>○この5年の「対話」「継続的」「マネジメント」などを総括し、社会情勢の変化も踏まえ、何を重視すべきか要検討。</p> <p>○更なる市民参加、職員参加による協働の在り方を要検討。</p>	<p>・次期期間中に何を重視するか</p>	
5 計画を着実に進めるための推進体制	<p>取組1 各局区・各職場における市民参加推進のマネジメント体制の強化</p> <p>取組2 職員の市民参加推進に対する意識の向上と能力開発の計画的な実施</p> <p>取組3 区役所・支所の総合調整機能の強化</p> <p>取組4 市民参加推進計画の進捗状況や課題の公表</p>	<p>○推進施策を着実に実施するための体制を行政として整備する必要がある。</p>	<p>・次期期間中に何を重視するか</p>	1

< 計画改定に関する議論の進め方（案） >

【今年度の予定】

第3回フォーラム会議（R1.11.28）	第4回フォーラム会議（R2.1月末）	第5回フォーラム会議（R2.3月末）
<p>議題</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) 市政総合アンケートの実施について (2) 施策2,3,7,9,10の進捗管理について <u>(3) 次期市民参加推進計画の策定について</u> (4) 令和元年度第2回市民公募委員サロンについて 	<p>議題(予定)</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) 施策2,3,7,9,10の進捗管理について (2) 「計画を着実に進めるための推進体制」の進捗状況について <u>(3) 次期市民参加推進計画の策定について</u> 	<p>議題(予定)</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) 市政総合アンケートの結果について (2) 施策2,3,7,9,10の進捗管理について (3) 令和元年度第2回市民公募委員サロンの実施結果等について <u>(4) 次期市民参加推進計画の策定について</u>
<ul style="list-style-type: none"> ○次期計画策定についての本年度スケジュール ○計画の位置づけや策定に関する方向性について <p>次回以降会議で、議論テーマとなるキーワード（今日求められている視点、社会状況の変化など）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ワークショップ形式で議論。 （例：出席委員を2～3グループに分けて／1テーマ45分～50分程度） ①「5年後に実現すべき具体的な未来像」 ②「重視する視点」 など <p>社会状況の変化や市民参加の進捗状況等を踏まえ、踏襲すべき部分、見直しすべき部分について議論</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○次期計画策定に当たっての考え方・方針を作成 <p>今年度の進捗確認のまとめ、第3回、第4回会議でフォーラム委員から出たご意見を踏まえ、「次期計画の策定の方針」を作成</p>

【次年度の予定】

- ・ R2.10 フォーラムからの提言
- ・ R2.12 パブリックコメント
- ・ R3.3 新たな市民参加推進計画の策定

次期市民参加推進計画策定の方針（たたき台）

1 策定の趣旨

- ・ 策定の根拠となる条例，上位計画，社会背景 など

2 第2期市民参加推進計画の進捗状況

- ・ 市民参加に関する各種の制度化と定着の状況（パブコメ，公募委員など）
- ・ 100人委員会⇒各区まちカフェ⇒“みんなごと”のまちづくり，対話の機会充実 など

3 現状の評価と課題

- ・ 制度が定着し市民参加が進んでいる部分
- ・ この間の進捗確認で課題として見えてきている部分 など

4 社会情勢の変化

- ・ 人口減少社会，少子高齢化，SDGs・レジリエンスの重要性，・・・・・・ など

5 計画の方向性

- ・ 計画の位置づけ，継承すべき点，新規充実させるべき点

6 計画の進め方，次年度のスケジュール

7

市民参加推進計画に係る有識者意見

1 市民参加の現状の評価と課題について

- ・京都市の市民参加は一定進んでおりやれることはひととおりにやっている段階であり、今後これまで興味のなかった市民や、観光客、関係人口も含めた市民参加の裾野を広げて考える時期に来ている。
- ・市政参加については市民公募委員サロン等取組が充実しているが、まちづくり活動活性化はまだ取り組む余地が多い。
- ・「市民参加を進める体制」として市職員のファシリテーター養成の取組は他部局との横串の連携もあり評価できる。
- ・地域コミュニティについては、地域の力を高めるための行政としてのサポートの在り方について、考えなければならない。
- ・京都市が市民参加に対するビジョンをしっかりと打ち出し、市民に何を伝えたいかをはっきりさせる必要がある。

2 社会情勢の変化について

- ・NPO団体が成熟期に入った現在、市民活動の主体をより広く捉える必要がある。ソーシャルビジネスや各種団体による活動等、活動の形態に多様性が生まれている。
- ・市民活動はSNS等による発信が多くなっている。今後AI等を利用した情報収集も可能ではないか。
- ・SDGsは、連携を働きかける際の切り口として活用できる。特に、大企業や中小企業など企業との連携を進めるチャンスだ。
- ・「オープンデータ／オープンリソース」「オープンガバナンス」等の取組がより求められる。

3 今後の方向性について

- ・市民のつとめを市民自身が自覚し、地域自治を担える「市民力」「自治力」を持った市民育成が必要である。
- ・行政は、今後待っているだけではなく、市民の輪の中に入って行かなければならない。協働のまちづくりの中で、多様なセクターのつなぎ役としての職員の役割が求められる。
- ・地域と行政がしっかり対話するためには仕組や制度化が重要である。
- ・地域コミュニティとその他のセクターが結び付いて連携できている事例を調査、分析する取組が求められる。
- ・市民がやりたいことのサポートも重要だが、行政が抱える課題を発信し、手伝ってくれる市民を募集するような取組も必要。